

2018年6月議会  
「奄美大島上空での米軍機オスプレイの飛行訓練の中止を求める意見書（案）」  
に対する賛成討論（要旨）

2018/6/22  
まつざき真琴

私は、日本共産党県議団として、ただいま提案されました「奄美大島上空での米軍機オスプレイの飛行訓練の中止を求める意見書案」について、賛成の立場であることを表明し、その理由を述べ討論いたします。

6月4日に奄美空港に緊急着陸した、米軍輸送機CV22オスプレイ2機のうちの1機は、半月以上たっても、離陸することなく、奄美空港の格納庫に駐機したままになっています。昨日は、交換部品が到着したという報道がなされていましたが、エンジン自体を交換しなければならないトラブルなど、絶対にあってはならないことです。

奄美大島上空において、この間、目撃されてきたオスプレイの低空飛行は、住民に大きな不安を与えてきました。

宇検村の小学3年生の児童は「オスプレイがとんで来たら、私の家は古いので、地しんのしんど3～4くらいゆれます。夜はとてもうるさいので、2さいの妹が泣いてしまいます。」「オーストラリアでオスプレイが落ちたというニュースを見ました。もしかしたら、宇検村にも落ちるかもしれないと思ったら、とてもこわかったです。」と地元紙に投稿しています。

なぜ、奄美において、子どもたちがこういう思いをしなければならないのでしょうか。なぜ、米軍機が、地元自治体にも住民にも何も知らせず、低空飛行訓練を行うのでしょうか。

奄美市議会や大和村議会が、住民の思いに応え、全会一致で奄美大島上空でのオスプレイの飛行訓練の中止を求める意見書を採択したように、本県議会でも、奄美の住民のみなさんの思いに応え、県民の安心・安全を守るために力を尽くすべきであります。

私は、同僚議員のみなさんへ本意見書案への賛同を呼びかけ、賛成討論を終わります。